

音楽部会 研究の構想（案）

平成30年度～

I 研究主題

幅広い音楽活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。

II 主題設定の趣旨

平成26年度からの4年間は、「音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか」を研究主題とし、①〔共通事項〕を支えとした指導計画の作成、②〔共通事項〕を支えとした学習指導の工夫、③学習評価の工夫の三つの視点を中心に研究してきた。その結果、ねらいに即した指導計画及び学習指導が工夫され、ホワイトボードやICTを活用したり、学習形態（ペア・グループ学習等）を工夫したりした授業づくりが活発に行われた。〔共通事項〕を支えとすることは音楽科教育の根幹であり、今後も引き続き研究を進めていきたい。

さて、新学習指導要領の音楽科の目標では、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定した。また、「音楽的な見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」としている。これは、音楽科の特質に応じて物事を捉える視点や考え方であり、生徒にとって音楽を学ぶ意義の中核をなすものであるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」を実現する鍵となるものである。

その上で、音楽科が育成すべき資質・能力については、(1)曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。（生きて働く「知識及び技能」の習得）(2)音楽表現を創意工夫することや音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）(3)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）の三つの柱に再整理された。

そこで、平成30年度からの3年間は、改訂された目標の趣旨を踏まえ、上記の三つの柱に基づき、その主題解明に向けて研究を進めていきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するため、これまでの研究成果や課題を整理し、生徒の実態を踏まえながら、3年間の継続的な研究を通して研究主題を解明する。

2 研究内容

(1) 指導計画作成の工夫

- ・資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る指導計画の作成
- ・小学校や前学年までの学習を踏まえ、3学年間を見通した指導計画の作成
- ・〔共通事項〕の適切な位置付けと、〔共通事項〕を要とした各領域や分野の関連

(2) 学習指導の工夫

- ・「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思考、判断し、表現する一連の学習過程の充実
- ・音楽科の特質に応じた言語活動の充実
- ・協働的な音楽活動の充実と学習形態の工夫
- ・音や音楽と生活や社会との関わりを実感できる指導の工夫
- ・様々な感覚を音や音楽と関連付ける指導の工夫

(3) 具体的な評価と指導に生かす評価の工夫

- ・目標に即した評価の適切な場面や方法の設定
- ・生徒が学びを実感できる評価の工夫
- ・PDCAサイクルの構築を目指す評価の工夫
- ・生徒の思考過程が記録できる評価の工夫

音楽部会 平成31年度研究計画（案）

I 研究主題

幅広い音楽活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。

—「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動の工夫—

II 主題について

昨年度は、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動に焦点を当て、授業のどのような場面や方法で学習活動を工夫するのか、それにより生徒は何ができるようになるのかなど、生徒の姿を具体的にイメージしながら研究を進めた。授業において、生徒が活動を見通すことのできる学習課題を設定し、知覚・感受したことを共有・共感するために協働的な学習の場を設け、ホワイトボードや付箋紙を活用するなどの工夫や改善が見られた。一方で、言葉で伝え合う活動が多くなり、聴いて確かめたり音や音楽で伝え合ったりする活動が不十分となった。

これらを踏まえ、研究のさらなる充実を求めて、今年度も引き続き研究の副題を「『音楽的な見方・考え方』を働かせた学習活動の工夫」とした。「音楽的な見方・考え方」とは、音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、これが音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。生徒が自ら、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考えているとき、「音楽的な見方・考え方」が働いている。

「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習することによって、実感を伴った理解による「知識」の習得、必要性の実感を伴う「技能」の習得、質の高い「思考力、判断力、表現力等」の育成、人生や社会において学びを生かそうとする意識をもった「学びに向かう力、人間性等」の涵養が実現する。

したがって私たちは、「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習する上で、生徒が知覚・感受したものをどのように知識や技能と関連付けるか、その習得した知識及び技能をどのように活用していくか、学びを生活や社会の中の音や音楽と結び付け、その意味や価値をどのように自覚していくか、という三つの柱を理解し、その実現に向けて研究を進めていきたい。

III 研究内容とその視点

1 指導計画作成の工夫

- (1) 「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成に向けて、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るよう、指導計画を作成する。
 - ・学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして、自身の学びの変容を自覚できる場面を設定する。
 - ・対話によって自分のイメージを広げたり、思いや意図を深めたりする場面を設定する。
 - ・学びを深めるために、生徒が考える場面と教師が教える場をバランスよく設定する。
 - ・基礎となる知識及び技能をよりよく身に付けるため、生徒の主体性を引き出すよう工夫する。
- (2) 3年間を見通した指導計画は、題材等内容や時間のまとまりを考慮し、小学校や前学年までの学習を踏まえて作成する。
- (3) 〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において、十分な指導が行われるよう適切に位置付ける。その際、必要に応じて、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図る。

2 学習指導の工夫

- (1) 「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思考、判断し、表現する一連の学習過程の充実を図る。
 - ・目指す生徒の姿を明確にし、生徒が学習活動を見通せるような学習課題を設定する。
 - ・思考、判断し、表現する一連の過程を大切に板書や発問、ワークシート等を工夫する。
- (2) 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付け、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションの充実を図る。
 - ・音や音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図等を相互に言葉で伝え合う活動と音や音楽で伝え合う活動をバランスよく融合させる。
 - ・実際に音や音楽で表現したり、聴いたりして確かめるなどして、言葉で表したことと音や音楽との関わりを捉えられるよう指導を工夫する。
- (3) 知覚・感受したことを他者と共有したり、共感したりする協働的な学習の場面を設定するなど、より深い学びにつながるよう学習形態を工夫する。
 - ・ねらいに即したペア・グループ学習を効果的に取り入れる。
 - ・自由な身体表現等、体を動かす活動を取り入れる。
- (4) 音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。
 - ・自然音や環境音等について取り扱い、音環境への関心を高める。
 - ・取り扱う教材と学習内容とを適切に関連付ける。
 - ・音楽が果たしている役割を感じ取ることができる教材や、それを考えさせる機会を授業の中に位置付ける。
 - ・授業の学びが学校内外における音楽活動に生かせる場面を想起したり、振り返ったりする活動を取り入れる。
- (5) 様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深められるよう指導を工夫する。
 - ・思考の流れを可視化するとともに、様々な感覚と関連付けて捉えることができるようコンピュータや教育機器を活用する。

3 具体的な評価と指導に生かす評価の工夫

- (1) 学習指導目標に対して整合性のある評価を適切な場面、方法で行う。
- (2) 振り返りの場面では、生徒による自己評価、相互評価を行い、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて得た学びを実感できるよう評価の方法を工夫する。
- (3) 学習指導の在り方を見直すことや、個に応じた指導の充実を図ることのできる評価のPDCAサイクルを構築する。
- (4) 授業の中で、計画的・継続的に行い、生徒の思考が深まっていく過程が記録できるよう工夫する。

IV 研究方法

- 1 学習指導要領の趣旨等を確認し、一層の理解を図る。
- 2 各郡市内や郡市間での研究体制を整え、日々の授業実践を基に、協同研究を推進する。
- 3 教師自身の感性を磨き、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、指導力及び授業の分析・考察する力の向上を目指して積極的に研修を行う。
 - (1) 様々な研修会等に積極的に参加し、学んだことを生かして授業力や教師力、人間性を高める。
 - (2) 授業に関する資料を持ち寄ったり、新しい教材の紹介や地域の人材に関する情報交換を行ったりするなど、教師間の連携を密にする。

